

申請者:渡邊 章好

論文題目: 予算配分メカニズムの設計に関する研究

審査員 尾畑 裕
伊藤 秀史
挽 文子

本論文は、予算編成時に組織構成員が予算を意図的に歪めようとする予算ゲームの問題が生じる状況下において、企業全体の利益を高める効率的な予算配分方法を探ることを目的としたものである。予算編成にかかわるアドバース・セレクションの諸問題をとりあげ、契約理論を利用したモデルを構築し管理会計上のインプリケーションを得ようとしている。

本論文では、予算編成における共通費の配賦方法の問題、予算配分の効率性にたいする期間予算かローリング予算かの選択の問題、予算の調整機能に関する問題の3つの問題を取り上げている。第1の問題では、共通費の配賦方法として、インプットベースの配賦方法とアウトプットベースの配賦方法を比較し、通説で支持されているインプットベースの配賦方法よりも、アウトプットベースの配賦方法のほうが、情報レントを小さくでき、効率的資源配分ができることを指摘している。第2の問題では、期間予算とローリング予算という2つの予算編成方法を比較して、ローリング予算のほうが効率的予算配分に適しているという一般的見解にたいして、非対象情報下では、期間予算のほうが、効率的予算配分ができることがあることを明らかにした。その一方で、原価低減活動を行っている企業においては、ローリング予算がその活動を促進する効果のあることも明らかにしている。第3の問題では、製造部門と販売部門のそれぞれが私的情報を持つ場合に、誘因両立的予算配分メカニズムの効率性が限定的になることを明らかにしている。また製造部門と販売部門をプロフィットセンターとして統合してもしなくても、予算配分の効率性が変わらないことも明らかにしている。

本論文の評価できる点は、次の2点に集約できる。

第1に、わが国の管理会計研究では契約理論を使った分析的方法による研究は非常に少ないという現状のなかで、契約理論の先行研究のモデルを参考にしつつ、管理会計問題に適切なモデルを自ら構築して、分析を行い、管理会計問題にたいするインプリケーションを得ようとしている点で、本論文はきわめて貴重な研究であり、高く評価される。命題の証明も厳密になされている。

第2に、アドバース・セレクションの問題に限定しているものの、予算編成の問題に関する管理会計上きわめて興味深いインプリケーションが得られていることである。予算編成には様々な側面がある。そのなかのアドバース・セレクションの問題に焦点をあてて、分析的方法を効果的に使い、従来の予算管理論での一般的指摘とは異なる興味深い結論をえていることが高く評価できる。

本論文には問題点もある。本論文のモデルでの仮定についてさらに管理会計の観点から洗練化させる余地がある。また、本社費と共通費を区別せず論じている点、本来管理可能性の問題と無関係なところで不用意に管理可能性について言及しているところがあり、管理会計の論文としてより慎重で厳密な記述が望まれる。

このような問題点も残されてはいるが、本論文はこれらを補ってあまりある評価をできる内容を有している。よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定に準じた取扱により一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。